

新ユニット・リンク保険(有期型)【無配当】(一時払)
ライフドゥ

LifeDO

ライフドゥ80

LifeDO₈₀

月次運用実績レポート

2015年2月

特別勘定の名称	主な運用対象の投資信託	投資信託の運用会社
日本株投資力学ファンド	日興アクティブ・ダイナミクス (投資力学)	日興アセットマネジメント株式会社
日本株ジパングファンド	日興ジャパンオープン(ジパング)	日興アセットマネジメント株式会社
日本株エポリューションファンド	日興エポリューション	日興アセットマネジメント株式会社
日本株インデックス225ファンド	インデックスファンド225	日興アセットマネジメント株式会社
日本株インデックスTOPIXファンド	インデックスファンドTSP	日興アセットマネジメント株式会社
グローバルグロースファンド	Gグロース	(運用会社)日興アセットマネジメント株式会社 (運用再委託会社)ケリントン・マネジメント・カンパニー・エルエルピー
グローバルソブリン債券ファンド	日興・GS世界ソブリン・ファンドVA	(運用会社)日興アセットマネジメント株式会社 (投資助言会社)ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社
グローバルリートファンド	日興・AMPグローバルREITファンド (6ヶ月決算型)	(運用会社)日興アセットマネジメント株式会社 (投資再委託会社)AMPキャピタル・インベスターズ・リミテッド
グローバルカレンシーファンド	メロン・オフショア・ファンズ 日興グローバル・カレンシー・ファンド(円建クラス)	(管理会社)BNYメロン・インターナショナル・マネジメント・リミテッド (投資運用会社)BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社 (副投資運用会社)メロン・キャピタル・マネジメント・コーポレーション
マネーファンド	日興MRF(マネー・リザーブ・ファンド)	日興アセットマネジメント株式会社

<引受保険会社>

<募集代理店>

SMBC日興証券株式会社

 アクサ生命保険株式会社

redefining / standards

 SMBC日興証券

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
TEL 0120-933-399
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

〈特別勘定の種類〉

日本株投資力学ファンド

日本の経済および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる成長産業、成長企業の国内株式をトップダウンで選択する投資信託に主に投資することによって東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることを目標にします。

運用実績〈ユニット・プライス*〉の推移

*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2002年11月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日本株投資力学ファンド	5.58%	6.53%	16.50%	22.46%	80.70%	52.06%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.1
投資信託	95.9
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

日興アクティブ・ダイナミクス(投資力学)

日本株投資力学ファンドの主な投資対象である投資信託「日興アクティブ・ダイナミクス(投資力学)」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

〈基準価額の騰落率〉

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日興アクティブ・ダイナミクス(投資力学)	6.88%	17.45%	23.83%	85.56%	▲0.45%
TOPIX	8.05%	19.24%	25.77%	82.29%	11.05%

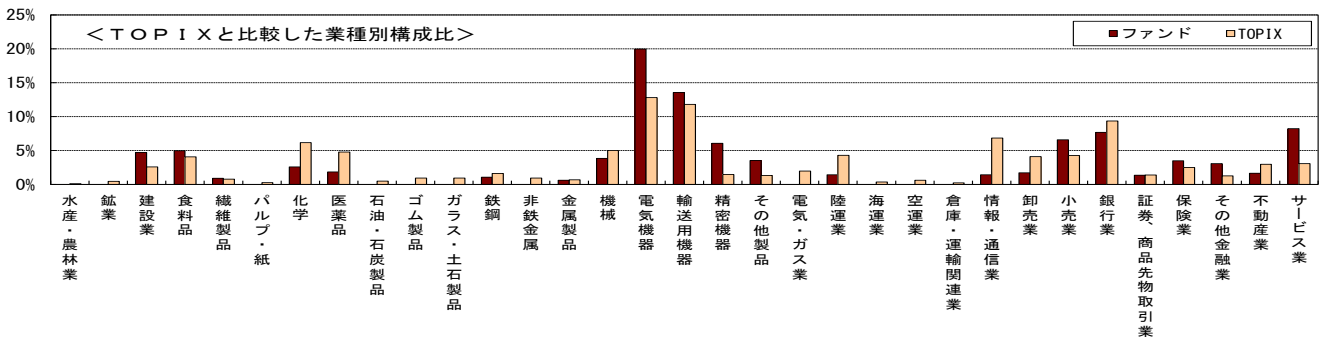
※基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

〈資産構成比率〉

	2015年2月末
株式	99.3%
うち先物	0.0%
現金その他	0.7%

〈株式組入上位10銘柄〉(銘柄数 74銘柄)

	銘柄	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	5.98%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.27%
3	オリエンタルランド	サービス業	2.61%
4	村田製作所	電気機器	2.55%
5	富士重工業	輸送用機器	2.32%
6	キーエンス	電気機器	2.30%
7	HOYA	精密機器	1.99%
8	東京海上ホールディングス	保険業	1.93%
9	朝日インテック	精密機器	1.92%
10	ダイセル	化学	1.91%



※「資産構成比率」「株式組入上位10銘柄」は純資産総額、「業種別構成比」は組入株式の評価額の合計をそれぞれ100%として計算したものです。
 ※「株式組入上位10銘柄」「業種別構成比」はマザーファンドの状況です。

〈運用コメント〉

2月の国内株式市場は、東証株価指数(TOPIX)が前月末比プラス7.69%、日経平均株価が同プラス6.36%と上昇しました。2015年1月末に発表された米国の2014年10~12月期GDPが市場予想を下回ったことや円高傾向となったことなどから、株価は下落して始まりました。その後は、原油価格に下げ止まり感が広がったことや、市場予想を上回った2014年12月の機械受注統計などを受けて国内の景況感が改善傾向となったこと、為替が円安へ転じたこと、また、ギリシャ情勢では欧州連合(EU)による金融支援の延長が合意に至り緊迫感が緩和したことなどが支援材料となり、株価は上昇基調が続きました。東証33業種分類では、その他金融業、銀行業、証券・商品先物取引業など30業種が上昇した一方で、空運業、電気・ガス業、ゴム製品の3業種が下落しました。

今月の主な投資行動につきましては、来期に向けて売上拡大に伴う業績改善が見込まれる銘柄や、マネジメントを中心とした構造改革の進展により業績改善が期待できる銘柄などを中心に新規購入を行う一方、業績モメンタムが鈍化する懸念のある銘柄などを売却しました。サービス株、電気機器株、その他金融株、精密株のオーバーウェイトがプラスに寄与したものの、銀行株、通信株、陸運株などのアンダーウェイトがマイナスに寄与したことから、1.82%のアンダーパフォーマンスとなりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

<特別勘定の種類>

日本株ジパングファンド

日本の経済および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる成長産業、成長企業の国内株式をボトムアップで選択する投資信託に主に投資することによって東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることを目標とします。

運用実績<ユニット・プライス*>の推移

*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2002年11月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日本株ジパングファンド	6.10%	6.42%	15.84%	22.37%	90.96%	102.65%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	3.8
投資信託	96.2
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

日興ジャパンオープン(ジパング)

日本株ジパングファンドの主な投資対象である投資信託「日興ジャパンオープン(ジパング)」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

設定日1998年8月28日

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日興ジャパンオープン(ジパング)	6.79%	16.71%	23.71%	96.40%	36.53%
TOPIX	8.05%	19.24%	25.77%	82.29%	36.43%

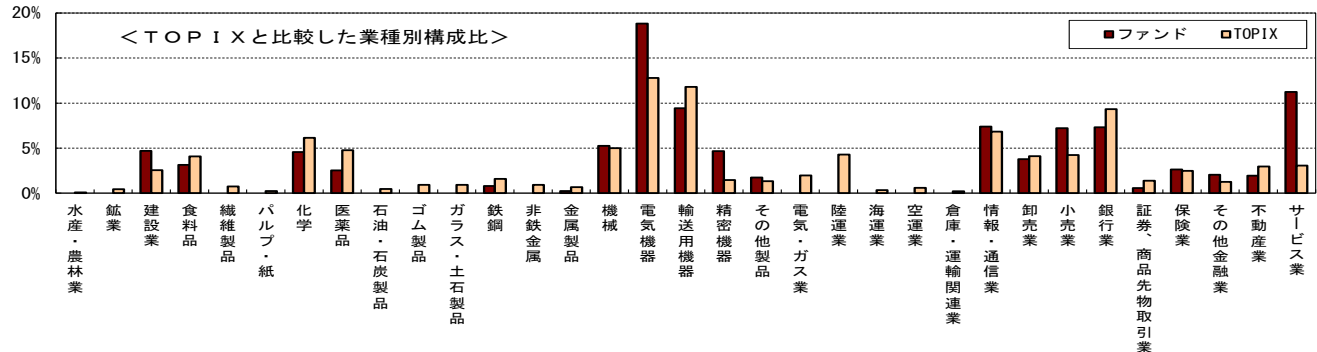
※基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

<資産構成比率>

	2015年2月末
株式	98.5%
うち先物	0.0%
現金その他	1.5%

<株式組入上位10銘柄>(銘柄数 97銘柄)

	銘柄	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	5.05%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.23%
3	村田製作所	電気機器	2.22%
4	キーエンス	電気機器	1.94%
5	HOYA	精密機器	1.91%
6	ダイキン工業	機械	1.89%
7	ソニー	電気機器	1.87%
8	ドンキホーテホールディングス	小売業	1.75%
9	日本電産	電気機器	1.70%
10	三菱商事	卸売業	1.66%



※「資産構成比率」「株式組入上位10銘柄」は純資産総額、「業種別構成比」は組入株式の評価額の合計をそれぞれ100%として計算したものです。

※「株式組入上位10銘柄」「業種別構成比」はマザーファンドの状況です。

<運用コメント>

2月の国内株式市場は、東証株価指数(TOPIX)が前月末比プラス7.69%、日経平均株価が同プラス6.36%と上昇しました。2015年1月末に発表された米国の2014年10~12月期GDPが市場予想を下回ったことや円高傾向となったことなどから、株価は下落して始まりました。その後は、原油価格に下げ止まり感が広がったことや、市場予想を上回った2014年12月の機械受注統計などを受けて国内の景況感が改善傾向となったこと、為替が円安へ転じたこと、また、ギリシャ情勢では欧州連合(EU)による金融支援の延長が合意に至り緊迫感が緩和したことなどが支援材料となり、株価は上昇基調が続きました。東証33業種分類では、その他金融業、銀行業、証券・商品先物取引業など30業種が上昇した一方で、空運業、電気・ガス業、ゴム製品の3業種が下落しました。

当ファンドでは、成長分野での高い競争力や事業再編効果などによって今後の業績拡大が期待できる企業の選別を進め、株価の割安性も重視した運用を行ないました。中期的な観点から、世界で高いシェアを持つ企業や、構造改善による業績拡大が見込まれる企業、アベノミスの恩恵が大きいと見られる企業などに重点を置いた運用を行なっています。今月の主な投資行動としては、株価の上昇で相対的な割安感が薄れた、情報・通信、化学、自動車などの一部を売却する一方で、株価に出遅れ感があつた金融、商社や、個別要因で好業績が見込まれる機械、サービスなどの一部を買い付けました。このような運用の結果、当月末における当ファンドの基準価額は前月末比でプラス6.40%となり、TOPIXのプラス7.69%を下回りました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

〈特別勘定の種類〉

日本株エボリューションファンド

全世界の経済動向および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる国内株式を主な投資対象とする
 投信信託に主に投資することによって、中長期的な投資成果を積極的にあげることが目標になります。

運用実績〈ユニット・プライス*〉の推移

*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2002年11月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日本株エボリューションファンド	5.10%	7.85%	20.09%	25.80%	100.71%	29.08%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.0
投資信託	96.0
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

日興エボリューション

日本株エボリューションファンドの主な投資対象である投資信託「日興エボリューション」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

〈基準価額の騰落率〉

設定日2000年4月21日

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日興エボリューション	8.31%	21.18%	27.30%	107.00%	▲30.35%

※基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

〈株式組入上位10銘柄〉 (銘柄数 84銘柄)

	銘柄	通貨	業種	比率
1	トヨタ自動車	日本円	輸送用機器	4.63%
2	村田製作所	日本円	電気機器	2.64%
3	シスメックス	日本円	電気機器	2.21%
4	シマノ	日本円	輸送用機器	2.11%
5	三菱UFJフィナンシャル・グループ	日本円	銀行業	2.03%
6	花王	日本円	化学	2.03%
7	東京海上ホールディングス	日本円	保険業	2.03%
8	クボタ	日本円	機械	2.01%
9	三菱商事	日本円	卸売業	2.01%
10	アステラス製薬	日本円	医薬品	2.00%

※「株式組入上位10銘柄」は純資産総額を100%として計算したものです。

〈投資テーマ別組入状況〉

投資テーマ	比率
新興国における購買力の上昇	29.2%
消費行動の変化	2.5%
人口動態・構造の変化	16.0%
インフラ需要の拡大	8.2%
グローバルな競争力	24.8%
株式価値の継続的な向上	17.1%
その他	2.3%

※2012年8月31日付けのマンスリーレポートより

「投資テーマ」の分類を変更しております。

※「投資テーマ別組入状況」は組入株式の評価額の合計を100%として計算しています。

※上記「投資テーマ」は将来変更になる場合があります。

〈運用コメント〉

2月の国内株式市場は、東証株価指数(TOPIX)が前月末比プラス7.69%、日経平均株価が同プラス6.36%と上昇しました。2015年1月末に発表された米国の2014年10~12月期GDPが市場予想を下回ったことや円高傾向となったことなどから、株価は下落して始まりました。その後は、原油価格に下げ止まり感が広がったことや、市場予想を上回った2014年12月の機械受注統計などを受けて国内の景況感が改善傾向となったこと、為替が円安へ転じたこと、また、ギリシャ情勢では欧州連合(EU)による金融支援の延長が合意に至り緊迫感が緩和したことなどが支援材料となり、株価は上昇基調が続きました。東証33業種分類では、その他金融業、銀行業、証券・商品先物取引業など30業種が上昇した一方で、空運業、電気・ガス業、ゴム製品の3業種が下落しました。

このような環境下、当ファンドは前月末比プラス5.37%となりました。月中におきましては、足元のファンダメンタルズとともに、来期以降の業績動向を勘案し売買を行いました。具体的には、スマートフォン及び自動車関連において販売数量の増加が期待できる電子部品や、好調な業績と潤沢なキャッシュフローを背景に株主還元への期待が高い精密関連銘柄などの新規組み入れ、ウェイト引き上げを行いました。一方、業績動向は堅調ながら株価上昇で下落リスクの増した建設業、四半期決算が想定比弱含んだ機械関連銘柄などの売却、ウェイト引き下げを行いました。月間の寄与度で見ると、上位には電子部品や医療機器関連銘柄が入る一方、下位には鉄鋼や不動産関連銘柄などが入りました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

〈特別勘定の種類〉

日本株インデックス225ファンド

国内上場株式に投資することにより、日経平均株価指数に連動した投資成果をあげることが目標になります。

運用実績〈ユニット・プライス*〉の推移

*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2002年11月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
日本株インデックス225ファンド	6.09%	7.37%	21.39%	26.62%	95.52%	129.65%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.4
投資信託	95.6
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

インデックスファンド225

日本株インデックス225ファンドの主な投資対象である投資信託「インデックスファンド225」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

〈基準価額の騰落率〉

	3か月	6か月	1年	3年
インデックスファンド225	7.73%	22.51%	28.13%	101.07%
日経225	7.66%	21.87%	26.66%	93.33%

※基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

〈国内株式組入上位5業種〉

	業種	比率
1	電気機器	18.3%
2	小売業	12.1%
3	情報・通信業	10.8%
4	化学	7.9%
5	輸送用機器	7.3%

〈資産構成比率〉

株式	100.0%
うち先物	1.9%
現金その他	1.9%

※「資産構成比率」「株式組入上位10銘柄」の比率は純資産総額を、「株式組入上位5業種」の比率は組入株式の評価額の合計を、それぞれ100%として計算したものです。

※「株式組入上位5業種」「株式組入上位10銘柄」はマザーファンドの状況です。

業種は東証33業種分類によるものです。

※「資産構成比率」はマザーファンドの投資状況を反映した実質の組入比率です。

〈株式組入上位10銘柄〉(銘柄数: 225銘柄)

	銘柄	業種	比率
1	ファーストリテイリング	小売業	9.64%
2	ファナック	電気機器	4.78%
3	ソフトバンク	情報・通信業	4.60%
4	KDDI	情報・通信業	3.45%
5	京セラ	電気機器	2.51%
6	アステラス製薬	医薬品	1.98%
7	東京エレクトロン	電気機器	1.87%
8	TDK	電気機器	1.75%
9	信越化学工業	化学	1.71%
10	トヨタ自動車	輸送用機器	1.68%

〈運用コメント〉

2月の国内株式市場は、日経平均株価が前月末比プラス6.36%と上昇しました。1月末に発表された米国の2014年10~12月期GDPが市場予想を下回ったことや円高傾向となったことなどから、株価は下落して始まりました。その後は、原油価格に下げ止まり感が広がったことや、市場予想を上回った2014年12月の機械受注統計などを受けて国内の景況感が改善傾向となったこと、為替が円安へ転じたこと、また、ギリシャ情勢では欧州連合(EU)による金融支援の延長が合意に至り緊迫感が緩和したことなどが支援材料となり、株価は上昇基調が続きました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

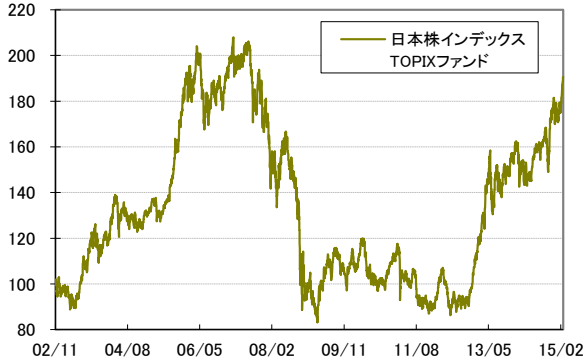
<特別勘定の種類>

日本株インデックスTOPIXファンド

国内上場株式に投資することにより、東証株価指数に連動した投資成果をあげることが目標になります。

運用実績<ユニット・プライス*>の推移

*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2002年11月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
日本株インデックスTOPIXファンド	7.30%	7.62%	18.89%	26.06%	85.53%	90.54%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.2
投資信託	95.8
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

インデックスファンドTSP

日本株インデックスTOPIXファンドの主な投資対象である投資信託「インデックスファンドTSP」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	3カ月	6カ月	1年	3年
インデックスファンドTSP	8.04%	19.94%	27.57%	90.79%
TOPIX	8.05%	19.24%	25.77%	82.29%

※基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

<資産構成比>

株式	100.0%
うち先物	1.7%
CB	0.0%
公社債	0.0%
現金その他	1.7%
外貨建資産	0.0%

<国内株式組入上位5業種>

	業種	比率
1	電気機器	12.8%
2	輸送用機器	11.8%
3	銀行業	9.3%
4	情報・通信業	6.8%
5	化学	6.2%

※「国内株式組入上位5業種」、「国内株式組入上位10銘柄」はマザーファンドの状況です。

※「資産構成比」、「国内株式組入上位10銘柄」の比率は対純資産、「国内株式組入上位5業種」の比率は対組入株式時価総額です。

<国内株式組入上位10銘柄>(銘柄数 1833銘柄)

	銘柄	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	4.98%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.76%
3	ソフトバンク	情報・通信業	1.72%
4	本田技研工業	輸送用機器	1.59%
5	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.59%
6	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.35%
7	日本電信電話	情報・通信業	1.28%
8	KDDI	情報・通信業	1.24%
9	武田薬品工業	医薬品	1.08%
10	ファナック	電気機器	1.07%

<運用コメント>

◎運用概況

当ファンドはTOPIX(東証株価指数)に連動した投資成果をめざすファンドです。実際の運用は、「インデックス マザーファンド TOPIX」受益証券を高位に組入れ、株式先物を利用して実質株式組入比率を100%程度で推移させています。「インデックス マザーファンド TOPIX」では、「バーラ 日本株式モデル」を使用して1,800銘柄程度に投資し、TOPIXへの連動性の高いポートフォリオを構築するとともに、株式先物を利用して実質の株式組入比率を100%程度で推移させています。

2月における当ファンドの基準価額は、TOPIXの7.69%の上昇に対し、7.68%の上昇となりました。今後もこれまでの運用方針を継続し、TOPIXに連動した投資成果を目指します。

◎株式市況

2月の国内株式市場は、TOPIXが前月末比プラス7.69%と上昇しました。1月末に発表された米国の2014年10~12月期GDPが市場予想を下回ったことや円高傾向となったことなどから、株価は下落して始まりました。その後は、原油価格に下げ止まり感が広がったことや、市場予想を上回った2014年12月の機械受注統計などを受けて国内の景況感が改善傾向となったこと、為替が円安へ転じたこと、また、ギリシャ情勢では欧州連合(EU)による金融支援の延長が合意に至り緊迫感が緩和したことなどが支援材料となり、株価は上昇基調が続きました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

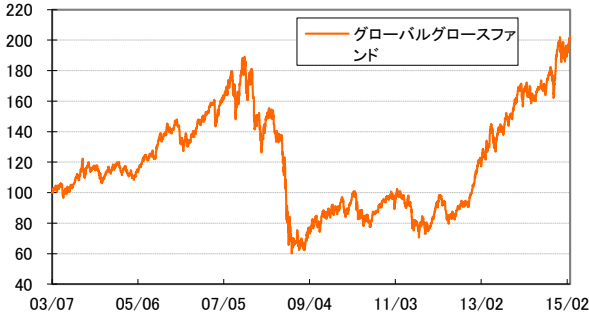
〈特別勘定の種類〉

グローバルグロースファンド

日本を含む世界主要先進国の株式のなかから特に世界的に競争力に優れた成長企業の株式に投資し、外貨建ベースの優れた収益の獲得を目指す投資信託に主に投資することによって、中長期的な観点から、日本を含む世界主要先進国の株式市場全体(MSCIワールド指数)の動きを上回る投資成果の獲得を目指します。

運用実績〈ユニット・プライス*〉の推移

* ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2003年7月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
グローバルグロースファンド	4.94%	1.61%	16.12%	19.41%	115.81%	102.05%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.2
投資信託	95.8
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

Gグロース

グローバルグロースファンドの主な投資対象である投資信託「Gグロース」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

〈基準価額の騰落率〉

設定日2001年4月20日

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
Gグロース	1.68%	16.85%	20.51%	123.29%	71.93%
MSCIワールド指数	2.57%	16.92%	24.41%	101.27%	55.02%

※基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

〈資産構成比〉

国内株式(先物含む)	8.3%
外国株式(先物含む)	88.0%
CB	0.0%
公社債	0.0%
現金その他	3.6%

〈株式組入上位10銘柄〉(銘柄数 75銘柄)

	銘柄	通貨	業種	比率
1	APPLE INC	アメリカドル	テクノロジー・ハードウェア	3.2%
2	BRISTOL-MYERS SQUIBB CO	アメリカドル	医薬品・バイオテクノロジー	2.6%
3	ANHEUSER-BUSCH INBEV NV	ユーロ	食品・飲料・タバコ	2.1%
4	ソニー	日本円	電気機器	2.0%
5	LOWE'S COS INC	アメリカドル	小売	2.0%
6	FACEBOOK INC-A	アメリカドル	ソフトウェア・サービス	1.9%
7	CELGENE CORP	アメリカドル	医薬品・バイオテクノロジー	1.8%
8	GOOGLE INC-CL C	アメリカドル	ソフトウェア・サービス	1.6%
9	SALESFORCE.COM INC	アメリカドル	ソフトウェア・サービス	1.5%
10	AMAZON.COM INC	アメリカドル	小売	1.5%

〈株式組入上位5カ国〉

1	アメリカ	56.7%
2	日本	8.4%
3	スイス	3.9%
4	イギリス	3.7%
5	ケイマン諸島	3.7%

※「株式組入上位5カ国」「株式組入上位10銘柄」の比率は、マザーファンドの状況で、対純資産総額比です。「資産構成比」はマザーファンドの投資状況を反映した実質の組入比率です。

〈運用コメント〉

2月のグローバル株式市場は、ギリシャ債務問題の進展や比較的に堅調であった経済指標などが好感されて上昇しました。米国市場では、前半は雇用統計などの経済指標が概ね良好であったことに加えて、ウクライナでの停戦合意などで投資家心理が改善しました。中盤以降もギリシャへの金融支援延長決定により財政破綻に対する懸念が一旦は後退したとの見方が広がり、底堅く推移しました。欧州市場でも、ギリシャ問題の動向に市場が敏感に反応しましたが、支援延長の決定やウクライナ情勢の安定化への期待、良好なマクロ経済指標などが市場を下支えました。アジア市場では、これらに加えて中国人民銀行による預金準備率の引き下げやオーストラリア中銀による政策金利の引き下げといった金融政策も、株式市場にはプラスに作用しました。

このようななか、ボトムアップによる銘柄選択に基づき、金融セクターや一般消費財・サービスセクターなどの保有を引き上げた一方、情報技術セクターなどの保有を下げました。金融セクターでは、中国の国有商業銀行を新たに組み入れました。同行は、信用緩和政策を含む政府の景気浮揚策を背景に、高い利益成長が見込まれると考えています。また、一般消費財・サービスセクターでは、マカオでカジノやホテル・リゾートを運営する香港上場の娯楽企業を積み増しました。

2月末現在、ベンチマーク対比でオーバーウェイトとしているセクターは、情報技術、一般消費財・サービス、ヘルスケアで、対してアンダーウェイトとしているのは金融、エネルギー、公益事業などです。

今後も銘柄選択ならびにセクター選択を重視し、世界のリーディングカンパニーの経営陣との面談を続け、社内のリサーチ資源を幅広く活用し、徹底的なボトムアップ調査を行ってまいります。世界的な競争力を有し、地域市場におけるリーダー格の、質の高い成長型企業を選別し、投資を行ないます。

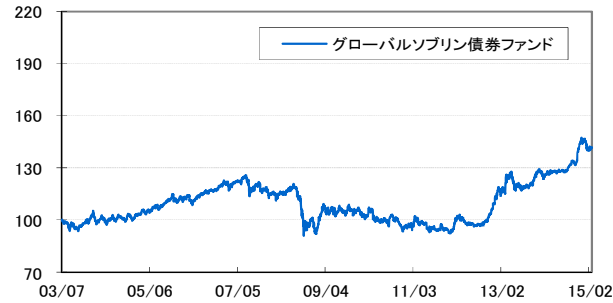
※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

〈特別勘定の種類〉 グローバルソブリン債券ファンド

世界先進国の信用度の高いソブリン債(※)を中心に分散投資する投資信託に主に投資することによって、安定した収益の確保と長期的な成長を目指します。
(※ソブリン債とは、各国政府や政府機関が発行する債券の総称です。主要先進国の国債や世界銀行、アジア開発銀行などの国際機関が発行する債券が含まれます。)

運用実績〈ユニット・プライス*〉の推移

*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2003年7月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
グローバルソブリン債券ファンド	0.13%	▲2.24%	8.18%	11.77%	40.13%	41.38%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.3
投資信託	95.7
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

日興・GS世界ソブリン・ファンドVA

グローバルソブリン債券ファンドの主な投資対象である投資信託「日興・GS世界ソブリン・ファンドVA」の運用状況をご参考のため掲載します。
(出所:日興アセットマネジメント株式会社、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社)

〈基準価額の騰落率〉 設定日2003年6月30日

	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
日興・GS世界ソブリン・ファンドVA	▲2.28%	8.68%	12.57%	42.84%	42.42%

※基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

〈ファンド情報〉

平均格付	AA+
平均クーポン	6.05%
平均利回り	0.73%

※格付は、S&P社によるものを原則としています。

〈通貨比率〉

	ポートフォリオ
米ドル	49.45%
米ドル以外のドル圏	1.49%
ユーロ	45.58%
ユーロ以外の欧州通貨	▲1.42%
日本円	4.90%

※「通貨比率」および「債券地域別比率」は、運用委託先のゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントから提供を受けた直近の資産配分変更時のモデル・ポートフォリオの配分を示しています。実際の金額配分は上記とは異なる場合があります。

〈債券組入上位銘柄〉

	銘柄名	クーポン	償還日	通貨	格付	構成比
1	アメリカ国債	8.75%	2020/8/15	米ドル	AA+	17.1%
2	アメリカ国債	8%	2021/11/15	米ドル	AA+	12.5%
3	ドイツ国債	6.25%	2024/1/4	ユーロ	AAA	12.3%
4	アメリカ国債	8.75%	2017/5/15	米ドル	AA+	11.6%
5	ドイツ国債	6.5%	2027/7/4	ユーロ	AAA	9.0%
6	ドイツ国債	6%	2016/6/20	ユーロ	AAA	8.9%

※「債券組入上位銘柄」の比率は純資産総額を100%として計算したものです。

〈債券地域別比率〉

	ポートフォリオ
米国	36.04%
米国以外のドル圏	4.11%
ユーロ圏	51.84%
ユーロ圏以外の欧州	11.61%
日本	0.62%

〈運用コメント〉

◎2月の市場動向

〈債券市場〉

当月の債券市場は、全般的に価格は下落(利回りは上昇)傾向となりました。主要債券市場の中では、英国と米国が相対的に大きく下落しました。一方、オーストラリアは小幅ながら上昇し、ドイツは小幅な下落となりました。各国の国債利回り推移をみると、英国10年国債利回りは、前月末の1.3%台前半から月を通じて上昇傾向となった結果、1.8%近辺で月を終えました。米国10年国債利回りは、前月末の1.6%台半ばから月の前半に大きく上昇し、月の後半は概ね横ばいで推移した結果、2.0%近辺で月を終えました。一方、オーストラリア10年国債利回りは、前月末の2.4%台半ばから月の前半に上昇傾向となり、月の後半は概ね横ばいで推移した後、月末にかけて低下した結果、2.4%台半ばで月を終えました。ドイツ10年国債利回りは、前月末の0.3%近辺から月を通じて一進一退の展開となった結果、0.3%台前半で月を終えました。

〈為替市場〉

当月の為替市場は、主要通貨のうち対円で上昇したのはニュージーランド・ドル、英ポンドなどでした。一方、スイス・フランは対円で下落となりました。

◎投資対象の評価

〈資産間配分〉

資産間配分においては、世界債券に対しては、モメンタムの観点から強気の見通しとしています。

〈債券国別配分〉

債券国別配分においては、ドイツや英国に対して強気の見通しとする一方で、米国に対して弱気の見通しとしています。ドイツに対しては、モメンタムおよびマクロの観点から強気の見通しとしています。英国に対しては、マクロの観点から強気の見通しとしています。米国に対しては、モメンタムの観点から弱気の見通しとしています。

〈通貨配分〉

通貨配分においては、米国や日本などに対して強気の見通しとする一方で、スイスやノルウェーなどに対して弱気の見通しとしています。米国に対しては、モメンタムの観点から強気の見通しとしています。日本に対しては、バリューおよびマクロの観点から強気の見通しとしています。スイスに対しては、マクロおよび資金フローの観点から弱気の見通しとしています。ノルウェーに対しては、マクロの観点から弱気の見通しとしています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

〈特別勘定の種類〉

グローバルリートファンド

世界各国の上場不動産投信（REIT = Real Estate Investment Trust）を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に高い投資成果をあげることを目標とします。

運用実績〈ユニット・プライス*〉の推移

*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点（2004年7月12日始）を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
グローバルリートファンド	▲2.46%	4.84%	19.85%	34.14%	101.17%	121.60%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.9
投資信託	95.1
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

日興・AMPグローバルREITファンド(6ヵ月決算型)

グローバルリートファンドの主な投資対象である投資信託「日興・AMPグローバルREITファンド(6ヵ月決算型)」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

〈基準価額の騰落率〉

設定日は2004年7月1日

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
Gリート	5.14%	20.96%	36.22%	108.02%	146.36%

※基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し計算しています。

〈不動産投信 国別上位投資比率〉

(銘柄数 56銘柄)

国名	比率
1 アメリカ	66.0%
2 オーストラリア	9.9%
3 イギリス	7.8%
4 日本	6.8%
5 フランス	6.7%
6 カナダ	1.7%
7 シンガポール	0.7%
8 ドイツ	0.4%
9	
10	

〈組入不動産投信の予想分配金利回り

(年率換算)〉

ファンド全体	比率
アメリカ	3.30%
カナダ	5.25%
オーストラリア	5.26%
欧州	3.61%
イギリス	2.52%
その他	3.20%

※マザーファンドの状況です。

※比率は、対組入不動産投信時価総額比です。

〈資産構成比〉

不動産投信	95.4%
現金その他	4.6%

※マザーファンドの投資状況を反映した実質の組入比率です。

※予想分配金利回りは、月末時点で組み入れている各不動産投信の予想分配金利回りをマザーファンド全体、あるいは地域別で不動産投信時価総額のウェイトで加重平均したものです。

※「地域別」の利回りは、2010年6月30日データより「投資対象国現地で支払う税金控除前」に変更しました。

※AMPキャピタル・インベスターズ・リミテッドの予想であり、当ファンド及び組入不動産投信の利回り、運用成果等について何ら約束をするものではありません。

〈基準価額騰落の要因分解(月次ベース)〉

前月末基準価額	7,687円
当月お支払いした分配金	0円
要	
不動産投信	-260円
アメリカ	(-298円)
カナダ	(-9円)
オーストラリア	(27円)
欧州	(23円)
イギリス	(-14円)
その他	(10円)
為替	72円
米ドル	(42円)
加ドル	(2円)
豪ドル	(9円)
ユーロ	(-1円)
英ポンド	(19円)
その他	(0円)
その他	-9円
小計	-197円
当月末基準価額	7,490円

※上記の要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。

〈運用コメント〉

○市場の概観

2月のグローバルREIT市場は、原油価格の低水準での推移と低金利環境の継続のほか各国中央銀行による金融緩和策動などを背景にまちまちの展開となりました。北米市場では、ヘルスケアREIT大手の業績に対する懸念などからヘルスケア・セクターが大幅に下落しました。一方豪州市場は、投資家による利回り追求の動きに牽引され上昇しました。欧州大陸市場は、ギリシャ支援の延長やスウェーデンの量的緩和策実施などから上昇しました。一方、英国市場はわずかながら下落しました。但し、英国の中でもロンドン市場が堅調であることは企業業績などからも明らかです。アジア市場は、まちまちな状況となりました。7-9月期の実質国内総生産(GDP)成長率が下方修正されたものの安定的な経済成長が予想される日本市場は小幅上昇でした。3ヶ月連続でインフレ率が低下したシンガポール市場も同様に小幅上昇しました。一方、香港市場は当局が再び住宅市場の過熱抑制策を発表したことで下落しました。

○投資行動

米国市場において、過去数年間にわたり資産の入れ替えを行いポートフォリオの質を向上させたことで大手競合各社と業績面で肩を並べる水準に達した住宅REIT、価格、成長性、そして経営陣の質が優れている小売REITを追加購入しました。豪州市場において、好調な豪州住宅市場にエクスポージャーを持つ住宅REITを追加購入しました。一方、バリュエーションの魅力度が下がった分散型を英国市場で売却したほか、最近アウトパフォーマンスが続いていた小売REITを豪州市場で売却しました。

○今後の見直しおよび運用方針

英国市場と米国市場に対する強気の見方に変わりはありません。これらの市場には及びませんが、日本市場と北欧市場に対しても強気に見ています。北米市場に関しては、引き続き経済及び不動産のファンダメンタルズが好調に推移していることから、賃料上昇の動きを素早く捉えることのできる賃料条件が比較的短期のセクターを選択します。豪州市場に対しては、経済動向が軟調であることから警戒感を維持しますが、これは主として資源セクター低迷によるものであり、シドニーやメルボルンなどの都市部のマクロ経済動向は相対的にポジティブです。豪州市場では引き続き、住宅市場を好みます。欧州市場に関しては、利回りを求める動きからREITの価格がおしなべて上昇していますが、この流れの一部は短期的なブームに終わると予想しています。欧州では、量的緩和策に大きな反応を見せている欧州大陸市場よりも、安定的な成長が見込まれる英国市場に対し、より強気の見方を持っています。また、スウェーデンが量的緩和に踏み切ったことに続き、今後ノルウェーが利下げを実施する可能性があることと見ていることから、北欧市場全体に極めてポジティブな見方を持っています。アジア市場に関しては、ファンダメンタルズが引き続き改善している日本のオフィスセクターに対し、最もポジティブな見方を持っています。一方で、香港とシンガポール市場に対しては警戒感を維持し、他のより良い投資機会を提供する地域を優先します。

引き続き、良好なファンダメンタルズを持つ国に焦点を当て、健全な資本構造を持ち、持続的な収益成長が見込める優良銘柄を選択していく所存です。

(当ファンドのマザーファンドを運用しているAMPキャピタル・インベスターズ・リミテッドのコメントをもとに作成)

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

<特別勘定の種類>

グローバルカレンシーファンド

短中期債を主な投資対象とし、通貨運用により超過収益を追求する投資信託に主に投資することにより、短期金利を上回る投資成果をあげることを目指します。

運用実績<ユニット・プライス*>の推移

*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2004年7月12日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
グローバルカレンシーファンド	▲0.02%	3.43%	4.85%	2.60%	▲6.93%	▲25.86%

特別勘定資産内訳

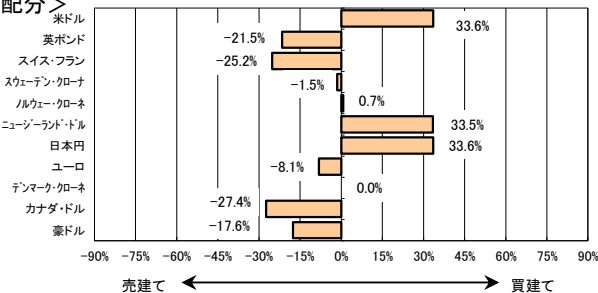
	構成比(%)
現金・預金・その他	4.3
投資信託	95.7
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

メロン・オフショア・ファンズ-日興グローバル・カレンシー

グローバルカレンシーファンドの主な投資対象である投資信託「メロン・オフショア・ファンズ-日興グローバル・カレンシー・ファンド(円建クラス)」の運用状況をご参考のため掲載します。(出所:BNYメロン・インターナショナル・マネジメント・リミテッド)

<通貨配分>



<基準価額の騰落率>

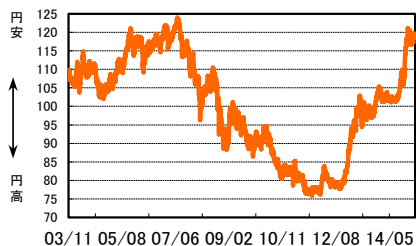
設定日は2003年11月25日

	3カ月	6カ月	1年	5年	設定来
Gカレンシー	4.04%	5.14%	3.03%	▲5.56%	▲25.08%

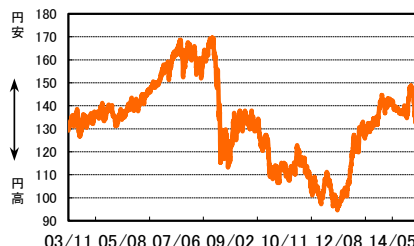
※ 分配金込み一口あたり純資産価格のパフォーマンス(税控除前)

<為替市場の推移>

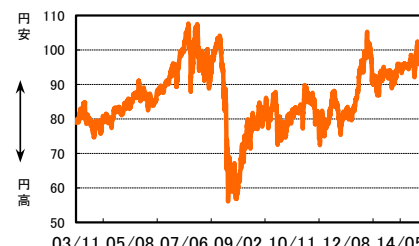
(円/米ドル・レート、単位:円)



(円/ユーロ・レート、単位:円)



(円/豪ドル・レート、単位:円)



<運用コメント>

・市場環境

当月、各投資対象通貨が対日本円でまちまちの動きとなりました。騰落率順に、ニュージーランド・ドル、ノルウェー・クローナ、英ポンド、カナダ・ドル、豪ドル、米ドルが対日本円で上昇した一方、ユーロ、スウェーデン・クローナ、スイス・フランが対日本円で下落しました。米国では、米ドルが各投資対象通貨に対してまちまちの動きとなりました。ニュージーランド・ドルやノルウェー・クローナに対して下落した一方、スイス・フランやスウェーデン・クローナに対しては上昇しました。当月(2月)、金融政策決定会合は開催されず、政策金利の誘導目標が0~0.25%の範囲で維持されました。2015年1月開催の米連邦公開市場委員会(FOMC) 議事要旨によると、時期尚早な利上げは景気回復の腰を折りにかねないとの懸念が示されていたことが明らかとなり、市場は今回の議事要旨が利上げに対してハト派的であるとの見方が大勢となりました。1月のISM製造業景況指数は53.5となり、前月の55.1から低下しました。1月の雇用統計では、非農業部門雇用者数が前月比+25.7万人と市場予想を上回った一方、失業率は5.7%と前月の5.6%からやや悪化したものの、雇用の減少ではなく、求職者数の増加によりもたらされたものでした。日本では、日本円が各投資対象通貨に対してまちまちの動きとなりました。ニュージーランド・ドルやノルウェー・クローナに対して下落した一方、スイス・フランやスウェーデン・クローナに対しては上昇しました。日本銀行は当月(2月)、金融政策決定会合で、マネタリーベースが年間約80兆円に相当するペースで増加するよう金融市場の調整を行うことを決定しました。円安に対する日銀の見方に関する一部報道を受け、黒田日銀総裁は、円安が「経済のファンダメンタルズを反映して安定的に推移する限りは、経済にマイナスになることはない」との従来通りの見解を示しました。2014年10-12月期実質GDP成長率(1次速報、年率)は前期比+2.2%となり、前期の-2.3%からプラスに転じたものの、市場予想を下回る結果となりました。

・パフォーマンス分析

当月は、英ポンドやカナダ・ドルの売建てなどがマイナス寄与した一方、ニュージーランド・ドルや米ドルの買建てなどがプラス寄与し、全体でプラスのパフォーマンスとなりました。

・投資行動

当月は、イールドカーブ変化の観点から魅力度の低下したスイス・フランを買建てから売建てに転換しました。一方、イールドカーブ変化の観点から魅力度の高まった日本円の買建て比率を引き上げ、同じくイールドカーブ変化の観点から魅力度の改善したユーロの売建て比率を引き下げました。

・運用方針

当月は、イールドカーブ変化及びフォワードレート変化の観点で魅力度の高い米ドルやイールドカーブ変化の観点から魅力度の高い日本円を買建て比率上位とする一方、イールドカーブ変化の観点から魅力度の低いカナダ・ドルなどを売建て比率上位としました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

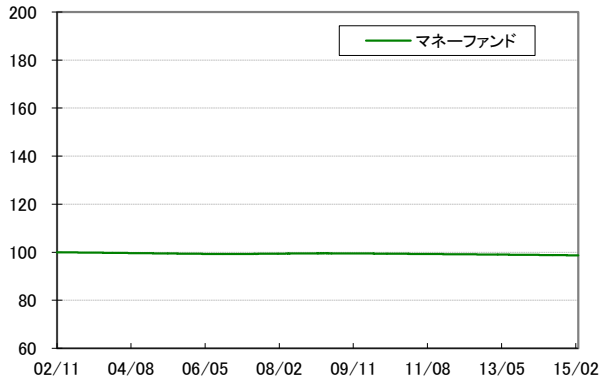
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

〈特別勘定の種類〉 マネーファンド

他のファンドで運用している資金の一時待機を目的に安定した運用を目指します。
主に国内の公社債および短期金融商品を中心に投資することにより、安定した収益をあげることを目標にします。

運用実績〈ユニット・プライス*〉の推移

*ユニット・プライスとは特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の「参考値」で、特別勘定の運用を開始した時点(2002年11月1日始)を「100」として指数化したものです。



特別勘定の騰落率

騰落率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
マネーファンド	▲0.01%	▲0.05%	▲0.09%	▲0.18%	▲0.49%	▲1.29%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現金・預金・その他	7.5
投資信託	92.5
合計	100.0

【参考】主な投資対象の投資信託の運用状況

日興MRF(マネー・リザーブ・ファンド)

マネーファンドの主な投資対象である「日興MRF」の運用コメントをご参考のため掲載します。
(出所:日興アセットマネジメント株式会社)

〈組入資産の種類毎の組入比率〉 〈格付別構成比率〉

区分	比率
国債証券	54.7%
地方債証券	0.0%
特殊債証券 (除く金融債券)	0.0%
金融債券	0.0%
普通社債券	0.0%
CP	5.0%
CD	0.0%
その他資産	40.3%
合計	100.0%

公社債		短期金融資産	
格付	比率	格付	比率
AAA	0.0%	A-1	45.2%
AA	54.7%	A-2	0.0%
A	0.0%	A-3	0.0%
BBB以下	0.0%	NR	0.0%
		その他	0.1%
A相当以上	0.0%	A-2相当以上	0.0%
	0.0%		0.0%
合計	54.7%	合計	45.3%

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率です。
※公社債の「A相当以上」及び短期金融資産の「A-2相当以上」は、投資信託協会自主ルール「MMF等の運営に関する規則」に基づき当社が作成したガイドラインで判断したものです。上段は1社の信用格付業者等による信用格付があるもので、下段は信用格付業者等の信用格付がないものです。
※「その他」は、有担保コール・ローン、指定金銭信託、未収金、未払金等です。
※国内発行体はR&I、JCR、Moody's、S&P、Fitchの順に優先して適用し、海外発行体は、Moody's、S&P、Fitch、R&I、JCRの順に優先して適用しています。
※日本の国債、政府保証債はAA格、格付を付与されていない地方債は、A格に含めています。
※政府が保証しているCPはA-1に含めています。

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率です。
※「その他資産」は、コール・ローン、指定金銭信託、現先取引、債券レポ取引、未収金、未払金等です。

〈組入資産の発行体別組入比率(上位10)〉

公社債(国債、地方債、特殊債を除く)			短期金融資産			備考
順位	発行体名	比率	順位	発行体名	比率	
1			1	三菱UFJ信託銀行	2.2%	
2			2	日本電信電話	0.9%	
3			3	三菱UFJリース	0.5%	
4			4	みずほフィナンシャルグループ	0.4%	
5			5	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	0.4%	
6			6	SMBC日興証券	0.4%	
7			7	三井住友ファイナンス&リース	0.2%	
8			8			
9			9			
10			10			

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率です。
※「短期金融資産」は、CP、CDです。

〈無担保コール・ローン(上位5)〉

順位	名称	比率
1	みずほ銀行	4.4%
2	三井住友信託銀行	4.4%
3	千葉銀行	1.3%
4	横浜銀行	0.8%
5	三菱東京UFJ銀行	0.4%

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を11/11ページに掲載していますので必ずご参照ください。

当資料はアクサ生命が新ユニット・リンク保険(有期型)
「LifeDO」・「LifeDO80」の特別勘定について運用状況などを報告する資料です

ご注意いただきたい事項

▲ 投資リスクについて

この保険の据置(運用)期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡保険金額および解約払戻金額等が変動(増減)します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる満期保険金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。

保険会社の業務または財産の状況の変化により、保険金額、給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

▲ 諸費用について

諸費用について	ご契約の締結・維持、死亡保障にかかる費用および特別勘定の運用にかかる費用があります。払込保険料からこれらの費用を差し引き、残りを運用対象額として特別勘定に繰り入れます。したがって、払込保険料の全額が特別勘定で運用されるものではありません。なお、これらの費用は、性別・契約年齢などによって異なり、金額や割合を表示することができませんのでご了承ください。また、これらの費用はご契約後、特別勘定からも定期的に控除されます。
移転費	積立金の移転が年間13回以上のとき、移転一回につき1,000円を、保険会社が移転を受け付けた日末に積立金から控除します。
投資信託の 信託報酬	日本株投資力学ファンド 年率2.16%程度(投資信託の運用成績により変動します。)
	日本株ジパングファンド 年率1.8576%程度(投資信託の運用成績により変動します。)
	日本株エポリューションファンド 年率1.9116%程度
	日本株インデックス225ファンド 年率0.5616%程度
	日本株インデックスTOPIXファンド 年率0.5616%程度
	グローバルグロースファンド 年率1.404%程度
	グローバルソブリン債券ファンド 年率1.1556%程度
	グローバルリートファンド 年率1.62%程度
	グローバルカレンシーファンド 年率1.5%程度
マネーファンド 年率1.0%以内(投資信託の運用成績等により変動します。2015年2月末:年率0.0073%)	

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

その他ご留意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新ユニット・リンク保険(有期型)「LifeDO」・「LifeDO80」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新ユニット・リンク保険(有期型)には複数の特別勘定グループが設定されており、「LifeDO」・「LifeDO80」には「特別勘定グループ(日興型)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(日興型)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(日興型)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほか、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新ユニット・リンク保険(有期型)「LifeDO」・「LifeDO80」は現在販売していません。